



春夏秋冬

2019
vol.15
季刊発行

eco 情報



「和紙畳」

い草と同じ自然素材だから安心して使え
吸放湿性にも優れダニやカビの発生もありません。
拭くだけでキレイになり、い草に比べ3倍の耐久性があります。
色落ちしにくく、日本の四季を快適に過ごせます。

ワンジャ 王家 サイカン 菜館

中田家の嫁、王さんが
教える中国の家庭料理。
ぜひ試してください。



番外編コラム

file No.015 「羊肉泡饅」(蒸しパンと羊肉の煮込み)



唐時代繁栄を誇った都長安ではシルクロードの出発点ということもありイスラム料理も多くみられます。

素焼きのパンを小さくちぎり羊肉のスープと煮込むとパンが膨れ上がり腹持ちがいいためイスラムの人の朝ごはんとして始まったそうです。

今では郷土料理として西安を訪れた人に愛されています。西安に行ったらお試しください。



冬の「体感ハウスの歩き方」

・室内の温度差

玄関を入ったら床下収納、階段、2階廊下、小屋裏を一巡してください。各所にある温度計、湿度計もチェックしてください。



・樹脂サッシ

アルミサッシに比べて冬の冷気を通しにくいので結露はほとんどありません。手に触れてみてください。



・暖房機

蓄熱式電気暖房器があります。手を触れてみてください。音も風も臭いもない静かな暖房器です。



・床下換気口

湿気が多い日本では床下の通気は欠かせません。冬は湿度も低く冷たい空気を床下に入れる理由はありません。冬場は閉じています。



・24時間換気

小屋裏に換気扇を設置しトイレや脱衣所から吸気ホースで引いています。室内にはモーターがありませんので音がしません。

これらのポイントに注意して体感ハウスを回ってください。たくさん発見があるはずです。

イベント報告

小山建設は夏涼しく冬温かい外断熱・二重通気工法「ソーラーサーキット」をおすすめしています！

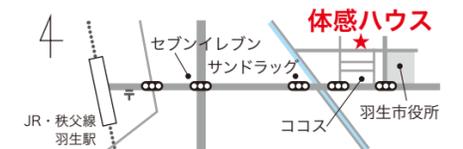
冬の体感フェア 2019

日にち：平成31年1月26日(土)、27日(日)
時間：午前11時から午後4時
会場：体感ハウス



薬膳教室も
開催予定

※写真はイメージです



羽生市東6-5-13 ☎048-563-1123

三代目通信

4年間の集大成、卒業設計。

テーマは「こども園」。どれだけ思いを詰め込めるか！

4年間、設計の課題が出るたびにアドバイスを通じ

て交流ができてよかった。親バカか！

ソーラーサーキットの家



発行：有限会社 小山建設
羽生市中央2-6-3
☎048-561-6878
info@e-hous.co.jp
編集長：中田 新一

●web もご覧ください
<http://www.e-hous.co.jp/>

OB report 訪問

小山建設で建てられた住まいを訪問し、今の住み心地等をご紹介します。

お客様インタビュー「久喜市 I 邸」



高齢のお母さまがいらっしゃるの、室内が温度差のない空気のバリアフリーで建てたいというのが、お客様の第一声でした。玄関に入って廊下、居室、トイレ、脱衣所など室内を移動するときにヒートショックを起こさないようにとのことでした。

最後に施工した玄関前に広がる大きなスロープ、これを見れば建て主様の家にいらっしゃる方を出迎える姿勢が読み取れます。

リビングには、大きな吹き抜けがあり1階と2階の気配を感じられる距離で結んでいます。和室もリビングと連続していますが独自の雰囲気を出しています。



この家は「ソーラーサーキットの家」が開催するデザインコンテストで入選を果たしたものの、規模が大きく、今までお客様をお連れしたことがありませんでした。当社としては施工事例は、あくまで家を建て替える人が参考になるようにお連れするので、当社の自慢の場所ではないからです。



高齢のお母さまの部屋は寝室と和室に分かれていてお客様が来ても気兼ねなく時間を過ごせます。一般には高齢者がいるお宅でも寝室を1部屋造りますが年齢が離れてくると生活習慣も違ってくるので家の中での別宅みたいな配慮も必要なのだと、きずかされました。



農業もやっているの、外からそのまま使えるトイレや雨水をためるタンク等お客様の思いが、ふんだんに盛り込まれた家づくりでした。

地元・羽生市での取り組み

第15回

「商工まつり」

毎年「文化の日」に開催される羽生市商工まつり。市内の商工業者、団体が市民に向け年に一回アピールする日。私の所属する羽生建設組合も毎年、市民プラザ内で包丁研ぎ、まな板削りちびっこ木工広場、物販で参加しています。

開店時間前から大勢の方が使い慣れた包丁、まな板をお持ちになり、普段はノミを研いでいる職人が包丁を研ぎ、柱を削っている職人がまな板を削り、家を造っている職人が子供と一緒にくぎの打ち方を将来の職人候補生に指導していました。



もう一つは私が理事を務めるNPO法人まちおこし・はにゅう市場では、中国琵琶の演奏家を招いて国際交流市民の会の開催ブースで日本と中国の名曲を中心に演奏してもらいました。普段聞く機会のない中国琵琶の演奏に路上ならではの開放的な雰囲気には酔っていました。



商工まつりは夏祭りと同様に、こんなにも羽生に人がいたのかと思うほど本町通りを埋め尽くし、食べたり買い物をしたりステージのショーを観たり楽しんでいるようでした。普段もこのような風景が出来ればと思う一日でした。



匠の仲間たち



わたしたちがいつもお世話になっている心強い匠たちをご紹介します。



file no.015

高橋豊店
高橋安廣さん

PROFILE
生まれ：昭和29年
出身：羽生市

創業は昭和15年、大正生まれの父が東京で修業した後、行田で畳職人として働き、昭和15年に独立。床作りからやっていたため、藁は地元の契約農家から調達していた。戦争で2年兵隊にいき、戦後は半農半職の生活。私は中学を出て、畳の専門学校で3年学んだ後、父と合流。最初のころは仕事が少なく、床を藁で作る他の畳店に卸していた。昭和の終わりごろから、だんだん馴染みのお客さんが増え仕事が安定してきた。現在、羽生の畳屋さんは3店だけに減ってしまった。いかに畳の仕事が減ったかを物語っている。